



元気にマジメに笑顔をつなぐ

あゆみだよい

2017年3月24日発行
No.206

あゆみの家は、5年前に指定管理者制度が導入されて区の直営施設から社会福祉法人の運営に変わり、最初の現場責任者として矢沢所長が就任しました。そして、今年4月から所長が交代することになりました。そこで矢沢所長に5年をふりかえってお話を聞きました。

この5年間をひと言で現すとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか？



「北風と太陽」ですね。当初は法人内でも運営に立候補することに賛否両論がありました。

私も15年程障害者福祉の仕事に従事していましたが、中軽度の方の就労支援が中心だったので自信はありませんでした。法人の職員に区直営時代にあゆみで勤務した経験のある職員がいて、私は彼女がその気になってくれるなら、「よしやろう、何とかなる！」と考えていました。一般的に施設の民営化は、経費節減や人員削減、成果主義といった悪いイメージがあるので保護者会も「民営化反対」で、保護者の皆さんの不安は大きかったと思います。だから「北風」の中での船出でしたが、最近の保護者会の雰囲気や利用者満足度調査の結果を見ると5年がたって陽だまり感というか「太陽」の季節になってきたかなと感じます。

保護者の皆さんへの不安の解消や信頼を得るために、何が対策を考えましたか？



特別な対策はありません。保護者の中には「重度障害者は環境変化に弱いし、一夜にして区の職員から法人職員に縋入れ替えになるわけだから“登校拒否”や体調不良者がいるかもしれない」と心配した方もいまし

所長交代 「さようなら」は 言いません



た。一番の不安解消策は、日々、利用者が元気に笑顔で通所している姿を見てもらうことです。健康状態や表情でそれを実感できることです。

あと職員によく話したのは、保護者対応は丁寧に正直にということです。特にミスや不都合、不利益なことほど早めに正直に対応しないと余計な心配や不信感を生むだけです。あゆみの家の利用者の場合、本人が言語や文書の会話が困難な方が大半だから「利用者中心の運営」とは「保護者の代弁にしっかり耳を傾ける」形をとることになります。ここは中軽度の障害者に対するサービス提供と大きく違う点です。だから、保護者との信頼関係抜きにより良いサービス提供が成り立ちません。

保護者との信頼関係以外で力を入れたことは、どんなことがありますか？

私はお祭りやイベントが大好きなので、区直営時代に比べるとエンターテイメント的なプログラムの導入とか、みんなで楽しめる行事に力を入れ

ました。そのために職員だけでは無理があるので積極的にボランティアや外部講師やアーティストの活用を進め、あゆみ祭にも地域の様々な団体の協力を得ました。福祉的に言えば「施設の理解者、応援団を増やすことで地域に開かれた明るい施設づくり」に力を注いだということです。相模原事件や東京パラリンピックのことをえるとこの取り組みは今後も継承されるうれしいです。私は仕事の基本は“楽しいとおもしろい”にあると考えていて、祭りやイベントには、楽しいこと、面白いことを詰め込みやすいからです。まあ、「楽し過ぎてけしからん！」とか「面白すぎるのは問題だ」という苦情はないでしょ。

“仕事の基本”と言えば、他にモットーとか、伝えたいことはありますか？



「楽しく、面白く、元気よく」。他の仕事する中でよく思い出す言葉としては、月並みですが「やらない後悔よりも、やってからの後悔」かな。同じような意味で「やらない、できない言い訳よりも、どうしたらできるか考えよう！」も肝に銘じている言葉です。あとは「逆風は飛び立つための向かい風」とか「成功するまでやり続ければ失敗しない」とか…、よく言えばプラス思考、悪く言えば“反省力”がないというか、「懲りないヤツ」です。この性格が、あゆみの家に幸いしたと自分なりには納得しています。4月から障害者福祉センターの館長に就任しますが、法人の役員としては、今後もあゆみの家の大切な意思決定には関わるので“さようなら”は言いません。これからも宜しくお願いします。

イクメン 職員奮闘記

編集長の記者への指令は『あゆみの家“イクメン男子”に子育てのことを聞け！』です。そこで一人目はあおぞらグループのホープ、加地さんに聞きました。加地さんは、音楽に、子育て、仕事にとマルチに才能を発揮して、志と能力の高さは誰しも認めるところです。それでは、加地さんのイクメンぶりを紹介します。

加地パパ登場！



あ子さんの出産の時は立会いましたか？それから子供が生まれてどんな心境の変化がありましたか？

子供は二人いて、長女が5歳の春寧（はるね）、長男が4歳の快秋（かいき）です。長女の時はお産に立ち会いましたが、長男の時は宿直で立ち会うことができませんでした。とにかく新しいオモチャが出来たようでは素直に嬉しかったです。心境の変化は？…うーん、特にないですね。（隣の席で3歳児の子育て中の牡鹿さんもウンウンと頷く）。でも気持ちは童心に戻ったと思います。



家事、育児の奥さんとの分担はどうようにしていますか？

日中の世話は奥さんが行っていて、後は身の回りは半々です。特に両立て苦労していることはありません。毎日がアリ充です。



子育てで大変なことや意識していることは何がありますか？

朝が一番大変です。言うことを聞かないですしね。でも子育ては基本的に楽しいこと



が多く、どんどん子供が成長していくのが楽しいですね。子育てで意識しているといえば、好奇心を伸ばすことです。面白いこと、興味を持ったことに対して、どんどん取り組むことですね。子供たちには伸び伸びと育って欲しいです。ビジョン、やりたいことを見つけてそれを一生懸命にやってほしいですね。



同僚の男性職員へアドバイスがあればお願いします。

子供が小さい時はあっという間に過ぎ去ってしまいます。「苦労は買ってでもしろ」という言葉があるように、この時期を率先して濃厚に関わってください。これまで一番大変だった時期は嫁が二人目出産の為入院した時、一人で保育園へ送り迎えしたおよそ十日間です。まさにシングルファザー。こんな時でも心に余裕を持って忙しいのをむしろ楽しんで味わえるようになって欲しいと思います。

★加地家のとある休日★

- 7:00 起床、朝ごはんを作る
- 7:30 子供が起きる
- 8:00 朝ごはん
- 9:00 朝市に行く
- 10:30 自転車に乗って公園へ行く
- 12:00 昼ごはんを作る
- 13:00 プラレール 公園へ行く
- 16:30 晩ごはんを作る、晩ごはん
- 19:30 子供とお風呂
- 20:30 孫子のありがたい言葉を伝える。プラネタリウムを点灯して星の神秘について語っているうちに、そのまま一緒に寝てしまう。

論語を教えていたとは恐れ入りました。どんなに先行き不透明な混沌とした社会になってしまっても力強く生きていける哲学を教えていたんですね。あとは毎回自家製のお弁当を加地さんは、お子さんの分も作っているそうです。その手作り弁当がこれ！（ほとんど冷食です：加地談）



「イクメン」とはズバリ、育児を楽しみ、育児や家事を積極的に行う男性のこと。「イクメン」という言葉は、2010年に厚生労働省が男性の子育て参加や育児休業取得の促進等を目的とした「イクメンプロジェクト」を発足した際、その年の新語・流行語大賞にノミネートされ、それを皮切りに芸能人がイクメン宣言するなどして一気に世間に浸透しました。

イクメン職員のひとり目は、こだまXグループのリーダー、黒木さんです。去年の8月末に待望のお子さんが生まれ、10月に約2週間休みを取って家事・育児に専念しました。

黒木パパ登場！



あ子さんの出産の時は立会いましたか？子供が生まれてどんな心境の変化がありましたか？

出産には立ち合いました。その瞬間は、人



問ってのは、本当に不思議だなあ、すごいなあと思いました。それは、もの凄い「ドーン！」といった衝撃でした。



家事、育児の奥さんとの分担はどのようにしていますか？

家事は5対5、育児は妻8で私2といつたところでしょうか。



子育てで大変なことや意識していること何がありますか？

大変だと思うのは待つこと、待たされることが増えたこと。自由が……。子育てと仕事の両立では、何かと苦労はありますが、その分「頑張ろう」との思いも増しました。子供のいる生活は、常に幸せを感じます。子育てで意識していることは、良く寝て、よく食べ、よく遊ぶことです。



赤ちゃんが出来たとわかった時の気持ちや子育てする前と後の心境の変化は何かありましたか？

もの凄く嬉しかったです。子育てによる心境の変化ということで思い浮かぶことは、子どもとともに日々変化です。毎日、一喜一憂ですね。



出産後の早い時期に育休を取得しようと思ったのは、何故ですか？

妻は介護の仕事と演劇の仕事をしていますが、お互い育児と仕事を両立しようと考えていたので、妻のそういう生活をサポートしたいと考えたからです。育休を取ったことで、子供としっかり向き合うことができました。それができたのは、何といつても仕

事仲間が快く送り出してくれたからです。本当に感謝の思いで一杯です。



育休中の子供とのふれあいを通じて変化したことといえば何？

母性が芽生えそうになりましたが、それは叶わなかったので、もっぱら妻のアシスタント的立場に甘んじています。子供はママが大好きですね。



男性の育休についてどう思いますか？また、育休中は、具体的にどんな手助けをしていましたか？

男性職員も育休はどんどん取るべきだと思います。職場全体でワークライフバランスを実現しましょう。手助けと言えば、妻は朝から夜まで忙しかったので、家事・育児全般をこなしました。



夫婦間の約束事や家事・育児の役割分担のルールはありますか？

ベビーカーと電動自転車は使わないとか、三人が同じ布団で寝るという約束があります。あとは、貰えるものは貰う、借りられるものは借りると、節約に励んでいます。妻が料理を作ってくれるので、洗いものは基本的に夫がします。

子どもの寝かしつけは夫がします。…といふかそのまま一緒に寝てしまいます。



同僚の男性職員へメッセージかアドバイスがあればどうぞ。

今の私にとって、子供は自分以上に大切な存在です。アドバイス？そうだなあ～『ママには優しくしましょう！』ですね。

★黒木パパのとある一日★

- 4:00 起床。息子が就寝中の自由時間
- 7:30 妻と息子が起きる。
- 8:00 のんびり朝食。妻が授乳。
- 9:00 夫婦で家事と育児。食器洗い、洗濯と掃除。息子と遊ぶ。猫の世話。
- 11:00 一息つく。息子と遊ぶ。妻が授乳。
- 12:00 大人は軽食。息子は物欲しそうに見ている。妻が授乳。授乳後はだっこ。
- 14:00 親子で外出。映画館の親子室で鑑賞。泣いたら妻が授乳。息子は睡眠。
- 17:00 帰宅。夫婦で家事と育児。妻が授乳。息子と遊びながらの世話も。
- 18:00 息子と入浴入浴後はオイル塗り。
- 19:00 妻が料理をしている間、息子と遊ぶ。夕食。妻が授乳。食後の食器洗い。
- 20:00 妻が授乳。息子が眠たくなる。添い寝する。自分も添い寝のまま就寝。

男性社員の子育て事情

- ◆実際に「育児休業」を取得した男性社員は、100人中26人。
- ◆男性の100人中35人は育児休業の利用を希望している。
- ◆週60時間以上働く割合が最も高いのは子育て期の30代男性。
- ◆男性の育児参加の時間は、1日にわずか33分。

※厚生労働省、総務省の調査結果から

我が街、落合・その14

アトリエ こどもDIY部

あゆみの家から徒歩2分にあるお店は、一見見透しそうな小さなお店ですが、店主の坂田さんのお話を聞くうちに熱い情熱がじわりと伝わってきました。



“あったらいいな”を形にする場所

足を踏み入れた第一印象は「狭いなあ」という感じでしたが、お話を聞きながら見直すと機能的に物が置かれ、子供の安全も配慮していることがよくわかりました。

●こういう工房を作った理由は、やはり子供が好きだったからですか？

それが全然好きじゃない。むしろ、子供に思い入れはない方です。この工房を作ったのは、私にも子供が4人いますが、自分の働き方を変えて地元で何かやりたかったからです。参加する子供たちとはフェアな関係でいようと心がけています。

●ものづくりとか創作にあたって、テーマとか決めてやっているのですか？

テーマは全然ありません。子供たちは、小学校にあがると放課後とか休みの日くらいしか自由な時間がないのに習い事や宿題で過ぎていく。小学校は自由な時間がない。今は教育の世界に大人の目が入りすぎていると思います。

子供たちに自由に選べる機会が少ないことがわかって、どんなに小さのことでも自分で選ぶことが大事だとすごく思いました。押しつけでなく自分で選択すると、たとえ失敗しても自分に返ってきますよね。すると失敗した時に何故だろう、どうしようかと自分で考える、それがとても大切だと思います。

大人の目が届かないところで子供たちに冒険してもらうことが大事で、自分で選択して考えるクセがつくと大人になってそれが生きるのではないかと思います。

●1日に何人くらい子供たちが来て、どんな様子ですか？

ご覧のとおり場所が狭いから最大で6人くらいで、主に未就学児や小学生が来ます。しかも、みんなやっていることがバラバラなので私ひとり全部は見切れませんが、各自、思い思いにやりたいことをやったり、おしゃべりします。そんな中で新しいことに挑戦する子は、私と一緒に考えながらやる、そんな感じです。私がやったこともないことをやる子がいると、私もやる気になります。

●大人ではとても思いつかない斬新な発想とかありますか？

どうでしょう？私はそれほど子供にロマンを求めるないです。普段、子供たちは学校でも家でも大人に期待され過ぎてちょっとかわいそうだなあと思っています。

大人から見ると、変な物に見えてそのままが楽しんで作っているのならそれでいいじゃないかと思います。大人だって子供に期待し過ぎて疲れているのではないでしょうか。元々、親と子どもは別人格なのでそこは一步引いて見てあげる「他人の大人」がいてもいいと私は思います。

●「やって、良かったなあ」と思ったことはどんなことですか？

自分の力で何かを作っていくのは初めてだったので、今4年目で、もうすぐ5年目ですが、正直、こんなに長く続くとは思いませんでした。これだけ続いたのは、私の力だけでなく、子供たちが協力してくれ

たおかげだと思います。子供たちは、本当に素直に協力してくれるんです。面白いですね。子供たちが「私もやる！」とか「僕もやりた～い」って言って。それに励ましてやってきたと思います。

子供の潜在能力を大人が過小評価しているのはもったいないなあと思って、来年は多くの方に子供たちの素敵などころを見てもらうような活動もやりたいと思っています。

●これからもっと工房を発展させたいとか、抱負はありますか？

そうですね。工作については、そんなにこだわりはなくて、それよりも子供たちがゆったりと自由に過ごせる場所が欲しいです。できればこの4倍とか5倍くらいのスペースで物を作ったり、ご飯を食べられる、そういう居場所があればいいなあと思います。いつでも気楽に子供たちが出入りして自由に過ごすことができる場所が地域の中に欲しいですね。実は、この活動を始めた頃に地域の人に怒られたことがあって、ショックを受けました。子供たちの存在をありのまま、地域の中に受け入れて欲しいと思います。

今の子供たちは、公園で遊んでも恐られるんですよ。危ないからあればダメ、これもダメって言われて、子供たちはショックを受けます。子供にすれば、「自分は何も悪いことはしていないのに…」「ただ遊んでいるだけなのに…」って。そのあたりは、大人と子供の世代間のギャップが大きすぎて可哀想だと思います。



●大変だったこと、苦労したことはどんなことですか？

お金がないことですね。子供たちはやりたいことがバラバラなので、例えば、映画を撮りたいという時に機材はどうするとか、お金がないから困ります。大人が考えていることより、子供は、全然違う切り口、想像力を持っています。本当に、自由に考えていいよというと、やりたいことはバラエティが豊富だし、大人と大して変わらないことに挑戦したいっていう子もいます。パソコンも身近に使いこなします。

助成金を頼むと「もっと公益的な事業を…」とか「伝統的な良さが伝わる取組みを…」と言われます。そういうすれ違いもあって、子供たちの想像力や多様なニーズが伝わりにくいです。そう言いながらも機械類の助成金を申請して貰っているんですけど、「今年はどうかなあ」とハラハラします。

●ここを作ろうとした内からでる情熱の源は何ですか？

お金が全てじゃないことも段々わかってきたので、子供たちに自分の労力を投資することは、自分の未来に投資することでもあると思います。子供たちだけのためにじゃなく、自分自身と日本のためになると 思います。

こういう話をすると、「そういえば日本は投票率が低いよね」って話になり、それから「結局、私たちの生活は変わらないよ」「世の中、何も変わらないじゃないか」という諦め話に行きつくんです。でも、政

治家が変わらなくても、区役所の人を変えてくれなくても、変えられるところは、自分たちで変えればいい。私はそんな風に考えます。

大人に管理され、小・中・高と与えられたことだけをやる子供たちがたくさんいます。大人が忙し過ぎて子供たちの自由な発想や行動力に思いが及ばなくなっています。だから、創作活動で大事ことは、「安全」や「成果」を求めるあまり、子供から自由や子供らしさを奪っている大人（保護者）の視点を変えていくことだと思います。

子供の心がしっかりと成長し、豊かになる方が日本は良くなる。ここで体験したこと、見たこと、聞いたこと、それは結局、子供たちの心の豊かさや、生きる力になってくれると私は思います。

こども DIY 部アトリエ
ワンダーボード
西落合2-9-7 あけぼのハウス
kodomodiybu@gmail.com



スヌーズレン

プロジェクト発足！

あゆみの家の利用者は、手足を自由に動かしたり、一人で座位を保つことが難しいです。身体の緊張も強く、リラックスできない利用者多くいます。

そこでスヌーズレンを通じた視覚・聴覚・触覚・嗅覚など五感への刺激によって、心身の緊張がほぐれ能動的な意識となって障害者の状態に応じたいきいとした活動空間が創るためにスヌーズレンルームを開設します。

スヌーズレンは既存のプログラムに比べて「指導者一被指導者」の関係性が生じないので介護職員と共に、楽しさの共有ができるためリラクゼーション効果が高いというメリットがあります。楽しみや安らぎの共有できる中で利用者は、より能動的な感覚刺激や探索活動ができます。



部屋は現在、使用頻度が低く遊休化している1階の和室を活用します。畳をタイルフロアにして防音や視覚効果の演出のための内装装飾を施します。

また、スヌーズレンは幼児や高齢者にも適し効果が高いのであゆみ祭等を通じて地域の皆さんにも体験利用していただき、障害者福祉の理解促進や施設の地域貢献活動にも活用します。

3月に所内に具体化に向けたプロジェクトを発足させました。

あゆみの 四季 <拡大版>

秋・冬の“あゆみの四季”的
風景をまとめて紹介します。



すっかりおなじみになった地元の消防団の“やきそば軍団”



今年のあゆみ祭は、オリパラの盛り上がりを再現すべく新企画としてユニバーサルコーナーやあゆみ商店街、多国籍ステージも登場して大盛況でした。目白大学の学生や地域の高齢者クラブ、PTAのママ達も出店してあゆみの家の応援団の輪も広がりました。

あゆみの家の自慢といえば、外出系と音楽系のプログラムの多彩さ。音楽系ではプロのミュージシャンから音楽サークルまで幅広い協力者に恵まれています。写真は、ハンドベルの早稲田エルズと武蔵野音大のミュージックセラピー研究会の“音楽ライブ”です。

今年の新成人は3名。あでやかな着物とりりしい羽織、袴の新成人が登場すると“かわいい、かっこいい～！”と大歓声が響きました。成育歴のスライドショーが流れるとみんなが祝福モードで幸せ気分になりました。



ピコ太郎も登場したクリスマスライブ。“恋ダンス”もあって会場はヒートアップ。大トリには、職員夫婦が登場した“満腹ライブ”で拍手と歓声につつまれました。

新宿養護学校で開催された「ゆめ水族館」を見学しました。大画面に映る魚や海流の幻想的な映像を堪能しました。「あゆみにも水族館を呼ぼう！」という職員の執念が実って2月に葛西臨界水族園の“移動式水族館”があゆみの家にやってきました。

今年の秋季合宿は、1回目は藤野で“アート&ナチュラル”をテーマにキャンプ風に過ごしました。2回目は横浜を中心に水族館やショッピング等、楽しく過ごしました。



温泉グループ



こだまXグループ



サンサングループ



あおぞらグループ

29年度の運営方針・事業計画を紹介

平成29年度は、区の直営施設から指定管理者制度に移行して6年目です。この制度は5年毎に契約更新となります。引き続き新宿区障害者福祉協会が今後5年間の運営を担当することになりました。

【運営方針】

●医療的ケア、感染症対策、リハビリ

プログラムの充実に努めます。

医療的ケア、標準予防策による感染症対策、リハビリプログラムの充実、医療職と介護職の連携強化に取り組み、利用者の障害程度が重度・重症化してもサービスの削減や利用制限を招くことがないよう支援体制の整備を進めます。

●定員問題と利用者の重度化に対応

できる体制整備の検討を進めます。

29年4月の定員の空きは2名のみとなります。現在、区立、民立とも生活介護施設を新設する計画がないことを考えると定員の増員の検討が急務です。そこで定員問題と医療的ケアの体制強化に向けて補助金制度や先進事例の調査により解決策を区と協議します。

●新規入所者の円滑な定着と新規プログラムの導入を進めます。

新規入所者は、2月～4月に5名を受け入れます。うち2名は医療的ケアの利用者ですが、丁寧な受け入れを心がけて円滑な定着を図ります。また、利用者が、より能動的で受容的な人間関係を形成できる感覚刺激プログラムとして「スヌーズレン」を取り入れます。

【実施する事業】

- ・生活介護及びリハビリプログラム
- ・通所バスによる送迎サービス
- ・給食サービス
- ・入浴サービス
- ・医療的ケアの提供
- ・土曜ケアサポート

- ・土曜ケアサポート
- ・日中ショート及び短期入所
- ・障害者相談支援事業（計画相談）

【運営上の主な変更点】

◆通所者⇒利用者は、28年4月は39名でしたが、29年は43名となり定員の空きは2名になります。

◆通所バス⇒29年度は通所バス6台を新車に入れ替えて、ハンディキャブ1台を加えた計7台で運行します。

◆医療的ケア⇒利用登録者が7名から9名に増えます。

◆理学療法士⇒これまで非常勤だった理学療法士が常勤職員となりリハビリプログラムの充実を図ります。

◆感覚活動プログラム⇒スヌーズレンルームを設置して、視覚、聴覚、触覚、嗅覚など五感への感覚刺激により心と体の緊張をほぐすリラクゼーションプログラムを日中活動に組み込みます。

◆感染症対策⇒職員の感染症対策に対する観察力や理解促進のための研修と標準予防策、特に手洗いの励行、習慣化の取組みを強化します。

【年間行事予定】

- 4月 入所式・始所式
- 6月 父母会交流行事、所内宿泊
- 9月 秋季合宿(2グループ毎に2回実施)
- 11月 第41回・あゆみ祭
- 12月 障害者作品展・障害者施設共同バザール
- 1月 成人を祝う会
- 2月 第8回「落合・地域とつながるカフェ」～地域福祉ネットワーク会議～他に全体保護者会（年6回）、グループ保護者会（毎月）、広報紙「あゆみだより」（年2回発行）、衛生委員会（毎月）、苦情処理委員会（年3回）、利用者満足度調査、避難訓練（年6回）など